

# わたしの主張 可児市大会

## 中学生が熱い思いを発表

6月12日「少年の主張可児市大会 わたしの主張2010」が文化創造センター・アリーラで行われ、市内中学校の代表者が社会に向けて個々の思いや意見をどを発表しました。内容の一部を紹介します。

### ★最優秀賞

#### 一滴のやさしや



鈴木 咲穂さん  
(中部中2年)

最近、子どもが虐待を受けているというニュースをよく耳にします。中には、虐待により命を落としてしまった子もいます。この問題の一番の理由は、人の心が貧しくなったからだと思っています。

人間は、人と人とのつながりの中で生きています。誰かに親切にしてもらって、優しい言葉をかけてもらうと心が温かくなることは誰でも感じたことがあるはずです。私も、困っている人に何かできることをしたい気持ちでわいてきました。

大きな川の流れも一滴の水から始まるように、まず、私から始めたいことがあります。それ

### ★優秀賞

#### 帰ってくるボール



宮平 ルーカスさん  
(蘇南中2年)

は、周りの人を大事にして、思いやりを持って接することです。そうすれば、優しくしてもらった人はうれしくなって、心が温かくなり、また、周りの人を大切にしたいという思いが生まれるはずです。一滴の水が波紋を広げるように、どんどん周りの人を思いやる心が育っていき、思いやりの輪が広がり、きっと心の豊かな人が増えて、悲しい事件が減ると思います。だから、私は、思いやりの輪が広げられるように、人を思いやる心を大事にして、周りの人に接していきたいです。

ブラジルにいたある日、母

そのボールが両親の笑顔や愛情として帰ってくるのです。

### ★優秀賞

#### つながりを生みだす「食」



加藤 ひろとさん  
(東可児中2年)

僕は、家で週一回料理を作ることを続けています。どうして母は毎日料理を作ってくれているのだろうと、母に聞いてみると、「コンビニの弁当や外食だと安心できないし、栄養のバランスが偏るからという、僕たちのことを思っていることでした。

このことを知って、僕たちの健康のことを考えてくれる母の優しさを知りました。また、「食」は家族との団らんを深めるとても大切なものだと考えています。家族そろって僕や母の作った料理をみんなで食べていたとき、会話がはずみ、食事がとても楽しいものになりました。

「食」は、生きるためには必要なものです。食事をとることは、自分の健康につながるし、それは家族や人とのつながりを生みだしていくと思います。

皆さんも、家族や人との楽し

い食事、そして作ってくれた人の気持ちを感ずる食事を楽しんでみてはどうですか。

### ★奨励賞

- 松枝 澤香さん(蘇南中)
- 市川 ちひろさん
- (帝京大学可児中)
- 水野 佑哉さん(中部中)
- 木村 文謙さん(広陵中)
- 足立 芽衣さん(東可児中)
- 高橋 郁臣さん(西可児中)
- 新田 つかささん(広陵中)
- 樋口 慧さん(帝京大学可児中)
- 山野 紗希さん(西可児中)

※発表順



熱く自分の思いを発表した各中学校の代表者たち